

目標達成計画

作成日:平成28年10月1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなるような、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	56	利用者の表面上の言動しか見ることができおらず、その言動の真意や言葉にならない思いを感じとることができていない。又、言葉では表現できない希望や要望等の気持ちを理解することの重要性が理解できていない。	<ul style="list-style-type: none"> ●各職員が不穏状態の対応に追われるのではなく、何故不安感が強くなるのか・何に対して焦っているのか・腹を立てている理由は何か等について深く考えることを習慣化する。 ●各職員が抽象的な内容がイメージできなくなっているという病状を理解し、言葉の表現による説明を求めるのではなく、表情や仕草等の言葉以外でのサインを感じとれるようになる。 ●各職員が日常の行動のパターンや些細な発言から、希望や要望等の隠れた思いを想像し可能な限り実践できるようになる。又、その際の利用者の変化を感じとれるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●不穏状態の対応時には、センタリング(バリデーション法)を行い、共感的な姿勢で接する。 ●「何でそんなことを言うの?」「どうしてそんなことをするの?」等の抽象的な質問ではなく、気持ちを察しながら「〇〇だから〇〇なの?」等の具体的な問いかけを行う。 ●表情(微表情を含む)や仕草から言動の真意を探る。 ●日常生活の中の“大切な瞬間”を感じとれるように観察力や感受性を磨く。 	12ヶ月
2	26	介護サービス計画書の内容について、各利用者の思いに沿った計画を立てるのが難しく、実践につながっていない。	<ul style="list-style-type: none"> ●各職員が利用者から「～が好き。」「～したい。」等の具体的な言葉を引き出す働きかけを行うことができるようになる。 ●各職員が反応が少なくなっている利用者に対して、言葉だけではないアプローチの仕方を工夫できるようになる。 ●各職員が計画の実施(実践)後のモニタリング結果を次の計画作成に生かすことができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●日々の生活の中で、利用者が笑顔になった時・快いと感じた瞬間を見逃さないようにし記録に残す。 ●反応が少なくなっている利用者に対して、いろいろなアプローチの仕方を考えて接し、利用者の五感を刺激する。 ●記録した利用者の様子と表情や仕草から察した利用者の思いを加味し、介護サービス計画に反映させる。 ●計画の実施(実践)についての詳細な記録をする。 	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。